

Doctor & Patient Communication

テーマ

ためこみ症治療における 動機づけを高める工夫

上越教育大学大学院
学校教育研究科心理臨床コース教授

五十嵐 透子

強迫行為の治療中、ためこみ症も 有ることがわかった30代女性の場合

Xさんは30代の女性で、幼少期、祖母から火事を経験した話を聞いたことから影響を受け、火事に対する強迫観念と外出時や移動時の火元やコンセントの確認行為を主症状として、薬物治療が開始された。その後、幼少期からのこだわりの強さや集中への困難さがみられることなどからADHD傾向があることへの自己理解を深めるなか、部屋を片づけられないことが話題になり、ためこみ症も有ることが明らかになった。

対話例

モノが多いのはわかっています。でも、みんな
そうじゃないですか。なのに、家族は捨てる、
捨てるってばかりで、私にとっては大切な
ものばかり…放っておいて欲しい。

Xさん

所有物が多いのはわかっているけど、それほどでも
ないし、何もいわれたくない？

公認
心理士

迷惑かけてないし…本は好きなんです。
書店にいったら見ると買いたくなって。

Xさんは本がお好きで、たくさんお持ちなんですね。

それも買って来ないって言うだけなんですよ！
本を買わないでいるなんて考えられない！

好きな本も購入しないようにいわれて、かなりイラ
つきますね。

…。

Xさんがたくさんのモノをご自宅のなかに置かれて
いて、部屋が思うように使えないことはありますか？

…動きやすくないかもしれない
…本を床に積んでいますし。

部屋のドアは開けたり閉めたりできますか？

ドアは開けたままです。

お風呂はゆっくりと浴槽につかって
ゆったりできますか？

…最近、浴槽にお湯をためることはない
です。でも、シャワーは使ってます。

台所はいかがですか？

いろいろあるけど、大丈夫です。昨日
もラーメン食べました。

調理をして、食べることもできるんですね。

布団の上で食べてますけど…。

布団の上？

いつも座っている場所です。

布団以外の場所で食べるスペースはありますか？

…。